（別紙様式）　　（Ａ３判横）

２　０　２　４（令和６）年度　学校自己評価システムシート（秀明中学校）

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする

重点目標	①生徒たちに「知る喜び」と「学ぶ楽しさ」を実感させる教育を行う。 ②保護者の「信頼と期待に応える教育」を行う。 ③規則正しい生活習慣を身につけ、自立心や忍耐力、協調性など豊かな人間性を育む。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（３月３１日 現在）			実施日２０２５（令和７）年３月１５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
①	建学の精神を具現化し、魅力あふれる学校づくりに専念するために、以下の項目について徹底する。 ・「生涯にわたって学び続けるために基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を身につける」とともに、「豊かな心と強い精神力を持った調和のとれた人間形成」を図る。 ・学校と家庭との「共育」「協育」を実践する。 ・イギリス英語研修で生きた英語を学ぶ機会を設ける。	学習指導の充実	・授業、課題、夜間学習、過去問題演習、個別指導など、秀明独自のきめ細かな指導を行う。 ・週末課題の提出状況を把握し、未提出者に対しての指導をする。 ・医進・特進コース及び成績最上位層の生徒は、「帰宅日講習」で発展問題に取り組ませる。 ・成績下位生徒に対して、秀明学力確認テストや秀明検定テストの反復演習を行う。 ・家庭からの「共育通信」をもとに、学校と保護者が協力して生徒を育てる。 ・イギリス英語研修は、スマートフォンの路上ひったくりなどを含めた安全教育を行ったうえで実施する。	・各教科で評価規準を作成する。 ・単元ごとの秀明検定テストにより、基本事項の定着を図る。 ・年５回の定期考査前後には、「目標と計画」「学習の振り返り」の自己評価をさせる。 ・定期考査の他に学期ごとに実力テストを実施する。 ・毎週末、到達度に応じた課題を出し、翌週の登校日に完全に提出させる。 ・「秀明通信」の一斉メール配信を毎週行う。 ・イギリス英語研修は現地の人々や他国からの留学生との交流を通して異文化理解を深められるよう計画する。。	・定期考査前には目標と学習計画を立てさせ、試験範囲の副教材や対策プリントを完全に理解するよう指導した。 ・試験後にはテストの振返りを行わせ、日頃の学習状況や取り組みについて、自ら省みる機会を設けた。 ・年３回の三者面談を通して、家庭と共に育てる「共育」を行った。 ・緊急時の連絡に一斉メール送信を行った。 ・校内Wi-Fi接続環境を整備し、一人一台タブレット導入を実現。Microsoft Teamsや「すららネット」を利用してオンライン学習を実施。 ・イギリス英語研修を実施した。	A	・定期考査２週間前には範囲を告知し、週末や放課後等を使って計画学習を進めさせる。 ・週末課題の意義を理解させ、登校日に完全に提出させる。 ・「共育通信」や三者面談を通して、保護者の信託に応える教育を実践する。 ・探究活動や主体的･対話的で深い学びの機会を増やし、思考力・判断力・表現力に加え、主体的に学習に取り組む態度も評価する。 ・文化祭や体育大会など、日頃の学習成果を保護者に披露する機会を設ける。	・出席停止期間もMicrosoft Teamsを利用したオンライン授業や質問対応ができてよかった。 ・オンライン授業だと集中力が続かないので、できるだけ登校させたい。 ・三者面談を通して、学校での様子や今後の課題を知ることができた。 ・生徒一人ひとりに応じた週末課題を提示してくれるのがありがたい。 ・週末の学習課題は、居残り指導も含めて提出できるまで熱心に対応している。 ・文化祭を参観し、生徒たちの主体的な活動を実際に見ることができてよかった。どの企画も完成度が高く、感心した。 ・イギリス英語研修は、本場の英語、文化に触れることのできる貴重な体験となった。
②	生徒に「知る喜び」と「学ぶ楽しさ」を実感させ、次の授業に期待する気持ちを持たせるために、以下の項目について更に推進する。 ・生徒のどんな質問にも対応できる教科指導力を教員は身につける。 ・定期考査、秀明検定テストへの取り組みを重視する。	授業の改善と指導力の向上	・カリキュラムマネジメントを進め、主体的･対話的で深い学びを実践する。 ・授業アンケートを実施し、その結果について改善方法を考えて実行する。 ・テーマを明確にして研修授業を行い、授業力向上に努める。 ・担任面談で定期考査ごとの目標を明確に持たせる。考査後は結果を分析し、その後の指導に反映させる。	・年間５回の授業アンケートを実施する。 ・年間２回以上の研修授業を実施する。 ・毎週、他の教員の授業を見学する。	・授業アンケートを年間５回実施した。 ・年間２回以上研修授業を行い、授業力向上に努めた。 ・主体的･対話的で深い学びを重視し、ＩＣＴ教材を用いて探究活動を行った。 ・定期考査は「知識・技能」と「思考・判断・表現」の分野ごとの結果を分析し、以降の指導や問題作成の改善に生かした。 ・定期考査後の振返りで理解したことの定着を図った。	A	・年間５回の授業アンケートを実施し、授業の質の向上に努める。 ・全教員が年２回以上研修授業を行い、指導力を向上させる。 ・各教室に配備しているモニターとタブレットを活用し、効果的な授業展開を研究する。	・授業アンケートが実施され、その結果に基づいて授業が改善されている。 ・イギリス人教員が複数いて、自由に会話ができる環境はすばらしい。 ・ＩＣＴ教材の導入により、自宅でも「すららネット」に取り組むようになった。 ・検定テストは合格点に達するまで追試を繰り返し、定期考査も満点学習を行うなど、積み残しのないような学習システムである。
	各学年で英語検定、漢字検定、数学検定の取得目標級を定めているが、より多くの生徒を積極的に資格試験に挑戦させ、上位級を取得させる必要がある。	資格試験	・検定試験の過去問題演習を徹底させる。 ・放課後、夜間学習時に検定試験の特別講座を設ける。 ・英検リスニング対策は全校あげて一斉に実施する。 ・各ＨＲで検定試験の取得級目標を定めさせ、学年をあげて指導にあたる。	・英検…１年生は５級、２年生は４級、３年生は３級の合格を目標とする。 ・漢検…１年生は５級、２年生は４級、３年生は３級の合格を目標とする。 ・数検…上位生徒には積極的に受検させる。	・英検…全生徒が、現在の取得級より上位級に挑戦した。リスニング対策講座やイギリス人教員による二次試験対策講座に熱心に参加し、多くの生徒が合格を果たした。 ・漢検…全生徒が、現在の取得級より上位級を受検した。 ・数検…受検希望者には、直前の対策講座を開講して動機づけを行った。 ・希望者は世界遺産検定を受検、合格した。	A	・英検は、放課後のリスニング対策やイギリス人教員による二次の面接対策を継続する。 ・夜間学習や放課後補習、週末課題等で各種検定の過去問題演習を徹底する。 ・数検やＰ検、世界遺産検定、ＫＥＴやＰＥＴも推奨する。	・各学年で目標級を定め、徹底した過去問題演習でよい結果を残している。特に英検の対策講座はイギリス人教員に指導を受けられるのがよい。 ・英検は、英作文対策に力を入れており、目標級に合格した生徒にも、さらに上位級を目指す指導体制ができている。 ・過去問題演習が充実している。
③	全寮制の生活において、以下の項目について徹底する。 ・基本的生活習慣の確立。 ・５つの約束（お酒を飲まない、たばこを吸わない、盗みをしない、暴力をふるわない、不適切な交遊関係を持たない）の厳守。 ・「心の学習」の充実。	生活指導の充実	・頭髪・身だしなみの指導は、学年全体で行う。 ・いじめは、生活アンケートや面談の継続により、防止に努める。 ・「善いことと悪いこと」「許せることと許せないこと」の区別をしっかりつけさせる。 ・新聞記事や先人の言葉を用い、正しい判断力・思考力を育成する。	・頭髪検査は月１回、身だしなみの指導は随時実施する。 ・面談を定期的に実施。生活アンケートは月１回実施する。 ・毎日ホームルームで主要な新聞記事を生徒に提示し、意見や感想を述べさせる。	・頭髪検査は月１回、身だしなみ指導は随時実施した。 ・担任との面談と生活アンケートは月に１回実施した。 ・毎日ホームルームで新聞記事を紹介し、生徒の意見や感想を発表させた。	A	・行って良いことと悪いことの判断や、他人をいたわる心を養う指導を継続して行う。 ・定期的な個別面談、月１回のアンケートを継続する。 ・感染症予防の観点から中止していた、廊下への新聞記事掲示を実施する。 ・「心の学習」をより充実させ、深く思考し、自分の意見を文章で表現する力を養う。	・「いかなるいじめも許さない」を実践し、厳正かつ敏速な対応をしている。 ・学校を訪れた際の挨拶が素晴らしい。 ・週末、帰宅するたびに子供の成長が感じられる。 ・学校行事や日程の変更があれば、できるだけ早く知らせて欲しい。